



「頭の柔軟体操」～“ユーモア・ウィットの威力”をどうぞ！

人間考学を究めんとされる永遠の学徒、渡辺明・九州工業大学名誉教授にご登場いただいて、表題のシリーズをお届けします。

柔らかくほぐされた頭脳から、素敵な夢アイデアが誕生しますように！（コラム担当 T 生）

第 17 回

原点回帰 (No.8)

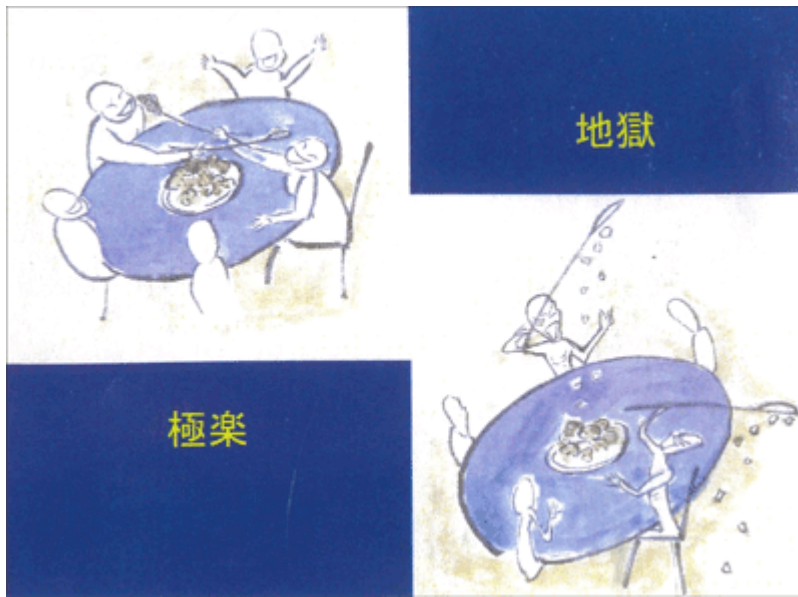
平成 26 (2014) 年 11 月

「金融資本の方ではマネーが価値を生むが如く言うが、マネーは動くだけで、価値を生むのは人間の労働と技術革新だけだ」との森田実氏の主張など何処吹く風、いまやマネタリズムが跋扈し、日本は国際化という名の「国境なき戦い」、市場メカニズムという名の「仁義なき戦い」の渦中で、特に中小企業が悪戦苦闘している。

そして、「弱肉強食は必要であって、企業の存廃など、問題ではない」の論理が強行され、特に、長年公共事業敵視政策に晒されてきた建設業はコストさえ維持できない受注に追い込まれ「競争に勝って赤字を出した店」が増え続け、倒産・廃業に至ったものが多く、いまや異常気象で災害が多発しているにも拘らず、それに即応するための機材や人材が不足している有様で、国家の社会資本整備を担う基幹分野に若者が集まらないという由々しい事態に立ち至っている。

さて、新聞・TV は、「某野球選手の契約金が幾らだ」とか、「ゴルフの賞金王は誰だった」とか、あたかも金の多寡こそが人間の値打ちを測る唯一つの目安かの如く喧伝し、「拝金物狂徒の若者」の増産に加担している。

また、銀行・証券会社・食品会社などでも、むしろ上層幕閣主導による、「数値至上主義」に根差す不祥事件が多発し、「若者に見せる大人の背中」が実に醜いものとなっている。そしていつぞや、薬師寺の高田好胤管長が、「日本はモノで栄えてココロが滅びた」と嘆いておられた通り、今や巷には「権利の主張に狂奔し、義務の観念の希薄な人間」が闊歩しているのである。



因みに、山田無文師の「むもん法話集」では、「地獄に閻魔大王・赤鬼・青鬼などがいると言うのは嘘で、真中にテーブルが置いてあり、その上にはご馳走がいっぱい盛られ、周りの椅子に、左手を椅子にしばられ、右手に匙が括り付けられた旧人間たちが座っていた」

「地獄館の人たちが痩せ細り、罵り合っていたのに対し、極楽館の人たちは極めて血色が良く、ふくよかに談笑していた。何故かと思ひ観察したら、前者は自分だけ食べよ

うと長い匙を手繰り寄せるため、途中で殆ど落ちてしまうのに対し、後者はお互いに向かいの相手に食べさせていた」と、生還者の後日談の形で【地獄と極楽】が説かれている。

己が、己がのミーイズムと、相手のことを思いやり共生を図る生き方の差を明快に教えてくれる。

日本は今後 GDP で国力を誇示する代わりに、文化の香りや感動を世界に贈れる、もっと静かな国になれぬものかと、切に思う。

渡辺 明 九州工業大学名誉教授
夢アイデア審査委員会 初代（平成 14 年～17 年）委員長